

# 水・エネルギー・災害研究に関する ユネスコ・チェア WENDI

## UNESCO Chair on Water, Energy and Disaster Management for Sustainable Development



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



UNESCO Chair on Water,  
Energy and Disaster Management  
for Sustainable Development,  
Kyoto University, Japan



# ユネスコ・チェア WENDI の目的

グローバル・リスクあるいは地球規模課題を解決することは人類共通のテーマであり、問題の所在の認知、世界的な取組の状況の把握、解決に向けた方策の模索が必要である。京都大学に設立するユネスコ・チェアの目的は、これらを大学院生が自主的・系統的に学ぶ場を提供することにより、社会の諸問題を解決する視野をもった人材として育つことを支援することである。

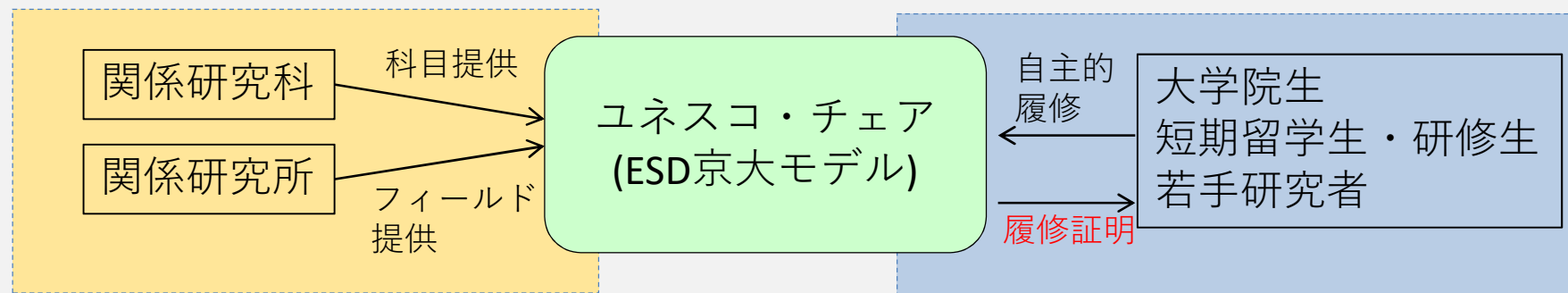


2018年2月13日 京大ユネスコチェア WENDI 協定締結式

# ユネスコ・チェア WENDI の実施内容

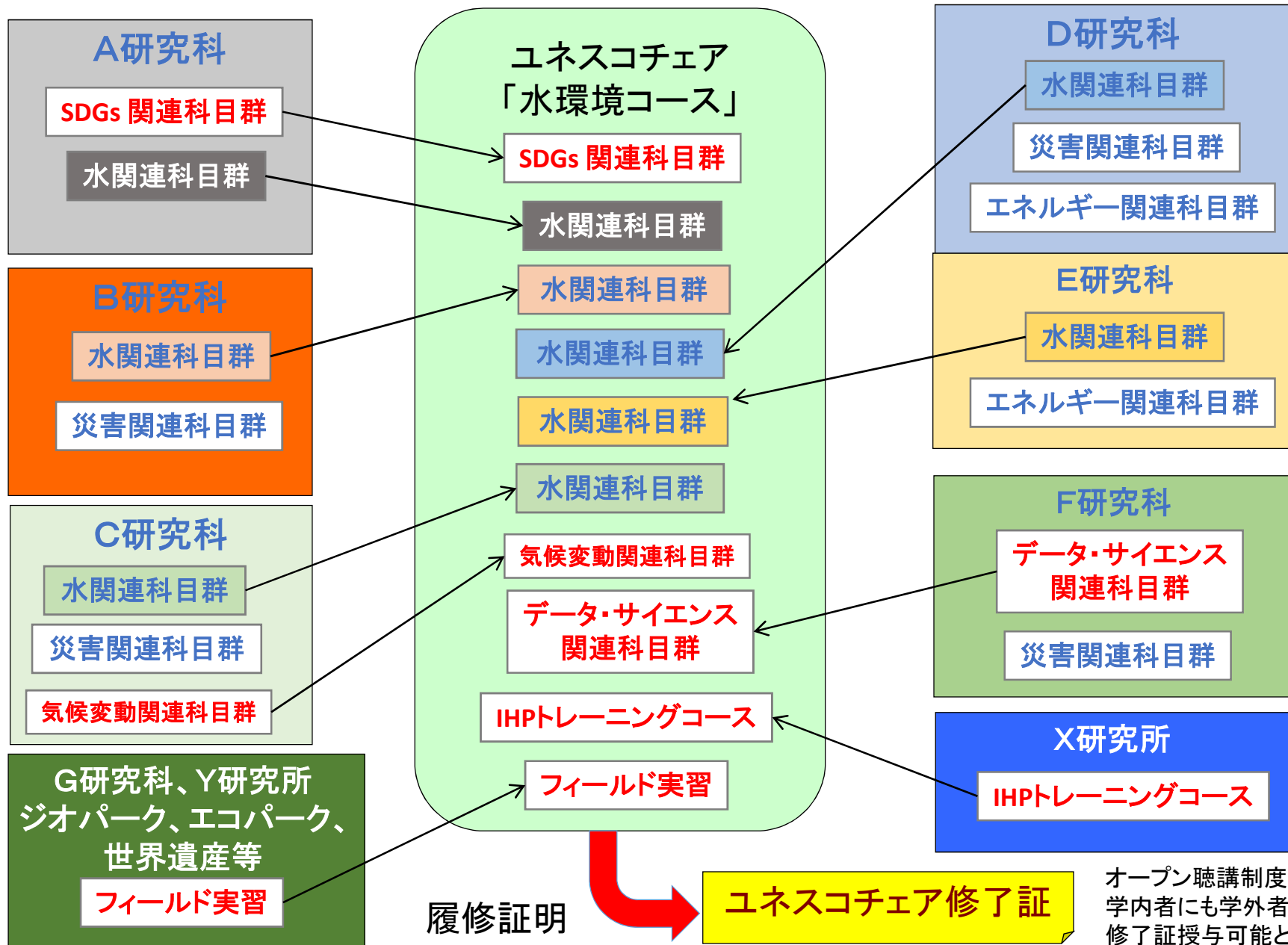
- 水・エネルギー・災害に関する研究者・教育者を多数擁する京都大学ならではの学際的な大学院履修コースを開設し、国内外に認知される組織とカリキュラムを確立する。
- 具体的には、各研究科・研究所等からの多数の科目提供教員の協力を得て、各研究科で開講している関連科目群（英語科目）を系統的に整理し、カリキュラムの実施、コース修了認定、修了証の発給を行う。
- 履修期間は定めず、各学生がコース・カリキュラムを自主的に履修・完了した時点で、質保証を担保しつつ、随時修了証を発給する。国内外からの履修者も受け付ける。また、ジオパーク、エコパーク、世界遺産などを題材としたフィールド国際共同研究を実施する。

ユネスコ・チェアのもとに研究者・教育者が結集し、系統的・学際的な学びの場、国際共同研究の場を大学院生、短期留学生など若い世代に提供する。



「水環境コース」、「水資源コース」、「エネルギー・コース」を順次開講し、系統的・学際的教育・研究プログラムを確立する。オープン聴講制度により学内者にも学外者にも修了証授与可能とする。

# 系統的・学際的なカリキュラム（水環境コースの例）



オープン聴講制度により  
学内者にも学外者にも  
修了証授与可能とする

ユネスコが推進するジオパーク、エコパーク、世界遺産等のサイトを活用した国際共同研究やフィールド実習を組み込み、それらのサイトの科学的・文化的意義や発展性、持続可能性を明らかにする新たな教育・研究展開を図る。

## 日本のユネスコエコパーク



現地フィールドをベースとした大学院レベルのESDを実施する場とする。

- 学際的な最先端の生態学、景観、生物資源の研究
- 社会経済分野を含む学際的な研究推進
- 研究成果の政策、技術革新、教育への実装
- 生態システムや社会への影響の長期モニタリング